

頌春 ふるさと再生に力を合わせる年に！ 産業祭 盛大に開催



産業祭会場の三宅産野菜の宝船

帰島10周年を記念し盛大に行われた第16回産業祭。1200人以上が訪れるなど盛大な催しとなったこのイベントでは、噴火後開発された灰干しなどが好評だったほか、植林に尽力した都立園芸高校等も参加した。

帰島10周年・第16回産業祭は、11月21日役場臨時庁舎駐車場などで小金井など友好都市や島出身者など1200人を超える来場。JA再建をした主催者の大年健士さんが力強い挨拶、「宝船」（写真）展示会場で行った。また恒例の「島市」も

あり光安三宅支部長や浅沼徳広さ



佐藤会長の同窓生も産業祭のため来島

総合戦略検討委員会が発足 再生・復興の転機に

三宅の将来を決する総合戦略検討委員会が9月に発足した。委員名簿を紹介するので意見を寄せられたい。

特に、期待したいのは、公開で島民の関心を高め、毎回、討議報告書を全島民に周知すること。また作文に終わらない様に、村と協議して予算措置をとった再生・復興策で噴火後の停滞を反転攻勢の最後のチャンスとして各委員のみなさん頑張ってください。

【委員名・敬称略】関健太郎委員長、堀井美也子、大年健士、谷順二、磯谷泰斗、沖山勝彦、浅沼浩希、澤谷公知、宮川勝兵、高松正志、谷寿文、松崎貴充、内田峰夫、宮下亮。（各団体代表者）

んの灰干し特産品など盛会だった。会場には、11月5日報じた毎日新聞主催の第43回毎日農業記録賞に都立園芸高の半澤大樹さん（17）が、リーダーとなり三宅島に10年間約3万5千本も植林した記録が認められ受賞。今回も愛知の安城農高とともに参加、長年、三宅島を支えてくれている人々に感謝を表したい。

前田氏に旭日単光章 高橋氏 光安氏も表彰
 10月1日、前田玄氏（阿古・88歳）が旭日単光章を受章した。前田さんは、83年NLP米軍艦載機訓練所三宅誘致反対のリーダーとして活躍、村議会議長8年間も務めた。またシルバー人材センター会長など歴任、避難中に八丈島に渡りレーザーファインなど植え帰島に備えた。忍耐と気骨のある人であり、ネットにも理解を示してくれている。また、消防災害対策功労表彰を高橋清一団長、安全運転貢献感謝状が光安千久子さんに三宅警察から送られた。帰島後、賞状を乱発気味だが、今回ばかりは、受賞を心よりお祝い申し上げたい。

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク

〒173-0005

東京都板橋区仲宿2-1

TEL 090-4922-0798

FAX 03-3964-4065

発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

○次号発行は5月1日です

○村長・村議選挙の投票を！

告示 2月2日（火）

投票日 2月7日（日）

○ドイツテレビ三宅取材

10月下旬から「世界一働くイタリア人！」と自称するドイツテレビのルイさんが「面白い旅」番組に三宅を取材してドイツで放送予定で助言した。三宅の大ファンとなり、別荘の紹介を依頼された。

○ご寄付のお願い

郵便振替口座

口座番号：00120-3-545036

口座名称：三宅島ふるさと

再生ネットワーク

新たに始まった歩み 着実に

三宅村村長 櫻田昭正



噴火から16年、帰島から11年になる2016年。年頭に当たり、櫻田昭正村長が、ご挨拶を本紙に寄せてくださった。その内容からは、更なる復興に向けた三宅島の新たな歩みを、島民とともに着実に進めていきたいという強い決意が伝わってくる。

三宅島ふるさと再生ネットワークの皆様、明けましておめでとうございます。

平素より三宅村民及び関係者のために精力的に活動頂いていることに感謝申し上げます。

昨年は、帰島10周年と歩みを合わせるように火山ガスの観測値が低下したことから、長年の課題であった火山ガスによる居住規制を完全に撤廃することができました。当

三宅の復興に向けた新たな取り組みについて
語る 櫻田村長

該地区にお住まいだった方々の10年余に及ぶ大変なご苦労を無駄にしないためにも、これからも村民の皆さまと力を合わせ、村の活性化に取り組んで参りたいと存じます。

さて、お蔭さまで、坪田地区に建設を進めていた多目的施設が昨年7月に完成し、正式名称を三宅村文化会館、愛称を公募により Resta Hall(リスタ☆ホール)と名付けました。再出発を意味するリスタートの意に、リラクッス(relax)、楽

しむ(enjoy)、笑顔で(smile)、一緒に(together)、誰もが(anyone)、希望の星(☆)という想いが重ねて込められております。帰島後10年、次の一歩を踏み出していく三宅島に相応しい愛称であり、三宅島の伝統芸能の継承や文化発展の拠点として末永く愛される施設になればと考えております。

また、一昨年8月に立ち上げた「三宅村火葬場整備検討委員会」から、昨年2月に火葬場の整備について審議結果を報告

島民在京者のご多様を祈って

ふるさとネット会長 佐藤就之

あけましておめでとうございます

旧年中は大変お世話になりました。誠にありがとうございます。本年もまた倍旧のご助力を賜りますようお願い申し上げます。

三宅島も、噴火災害15年、ようやく火山ガスも

収まり本格的な再生・復興の努力が一段と進んでいます。皆様のご支援によりおかげさまで、ふるさとネットも世話人、事務局一同頑張つていきます。三宅島のみなさん！在京者のみなさん！さらなるご多様をお祈り申し上げます。

お知らせ

ご本の贈呈、有難うございました。

「クロスアップ 学校」福村出版 2400円＋税

元三宅校長松尾駿一、玉川大森哲至両先生、他応用心理学者の共著 三宅噴火の心理的教訓を取り上げている。

頂きました。現在、建設に向けて検討を進めているところです。

さらには、これも一昨年8月に立ち上げた「役場庁舎に関する検討会」から、昨年12月に役場庁舎の在り方について答申を頂きました。今後、答申を踏まえて、その実現に向けて議会や島民の皆さまと共に努力して参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、今年一年が皆様にとつて、そして三宅島にとつてより素晴らしい年になりますよう祈念申し上げて新年のご挨拶とさせていただきます。

「支援者の集い」出欠葉書きのメッセージより 更なる復興に繋がる力がここに

酒井一豊(ネット副会長・在京者)

三宅島にお住みの皆さんお元気ですか。在京者も頑張って生活しています。特に若い人々、大学の教授、マスコミ、芸能の皆さんなどに支えられています。これからも三宅島を思いつつ暮らしに、励んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

光安千久子(ネット副会長・三宅島支部長)

晩秋の候 如何お過ごしでしょうか、早いものです。会長が三宅を離れて半年になります。皆様との距離間ができたような気がして、でも今回11月21日の産業祭に出席できた事嬉しく思いました。会長の元気な姿でホッとしたのではないでしょう。帰島10年の節目の年で何かと行事が重なり忙しい年でした。12月6日島が最後の行事で

す。皆様お身体に気を付けてお過ごしください。今後共支援の程よろしくお願いします。

栗原未帆(ネット事務局長)

三宅島への復興に向けて、微かながらも日々尽力させて頂いています。皆様のご協力に感謝しながら、今後も活動を続けていけたらと思います。

青木健史様(DTPA副会長)

新報の編集に携わらせて頂きましてから 3年が経ちました。これから三宅の皆様をつなぐ架け橋のような新報づくりを目指してゆければと思いますので、よろしくお願ひ致します。(同じく田中松陽様、長田峻輔様ご出席です。)

井上教子様(城北振興協会)

いつも新報を送ってくださいましてありがとうございます。是非三宅島に行つて美しい海等見に行きたいと思ひます。今

年も頑張ってください応援しています。

中嶋義雄様(都議会議員)

三宅島復興に引き続き議会において訴えてまいります。共々頑張つてまいります。

田中 良様(杉並区長)

しばらく島へは行つていませんが、島民の皆様も頑張つていらつしやると思ひます。皆様ご健勝ご祈念申し上げます。

遠藤美子様(在京者)

結果的に、島を見棄てることになりました私に、激励の言葉などおこがましい限りです。熔岩に両足をふんばり西風に耐えていらつしやる皆様のお幸せとご健康を陰ながら祈り上げるばかりでございます。

金澤利夫様(NHK広島放送局アナウンス)

皆様の努力には頭が下がります。広島におり、不義理ばかりで、すみません。今後ともよろしく

お願い致します。
木村健二様(毎日新聞記者)

原発事故や噴火災害が新たに発生し、三宅島の教訓が生かされるべきだと思います。益々のご発展を心より祈念申し上げます。

坂本 健様(協力者)

最近バスで三宅島内を巡るテレビ番組を見ました。イルカウォッチング・大路池・アシタバの畑など素晴らしい自然があり行つてみたいになりました。三宅島の復興、被災者の生活再建のために地道な活動を長年続けてこられた「三宅島ふるさと再生ネットワーク」の皆様にご会つて話を聞くことを、楽しみにしています。

佐藤宗ノ子様(在京者・園長)

14年前6名の三宅島のおさが避難先に、三宅島島民連絡会結成準備のために参りました。「3800人の島民がバラバラに内地におるの、会長となり一つにまとめてもらいたい。お前

は、三宅島のサラブレッドだから出来る！」と言われ、迷つていて主人は引き受けたのでした。それから私共の今まで好きなように、させていたただいたお札に頑張つていきます。ひとりひとり力を合わせて三宅のこれから日本のこれから世界のこれからを考えあつていきましよう！行動していきましよう！今三宅にイタリー・ドイツTV取材などでつながっています。

佐藤裕美様(協力者)

去年集いにお邪魔させて頂いた、その縁で今年の五月には念願の三宅島を初めて訪れる事ができました。その節は佐藤会長には大変お世話になりました。ありがとうございます。

是非集いに参加させていただければと存じます。どうぞよろしくお願ひ致します。

白石チズ子様(故・齋藤實夫人)

亡き夫が気にかけていました。三宅島の復興と発展そして、皆様のご活躍を願っております。

菅野善一郎様(協力者)

福島も原発事故から5年になろうとしています。が、政治家の口からだけ復興で現地はなにも復興していません。除染と言う名の仕事？土木業界の繁栄？戻れないのに幻想？天災と人災の差？残念でなりません。線引きが引き裂く事態、三宅島の再生ネットワークの活動を尊敬します。頑張つて下さい。

助川俊夫様(日本語指導講師)

「三宅島新報」の記事を読んで、今年こそは集いに参加しようと思つております。皆様のご活躍とご健康を願っております。

森 啓予様(ネット世話人・元DTPA会長)

2015年の全島避難指示解除の頃には、島の自然がここまで再生するとは想像もできませんでした。あとは、人を呼ぶ仕組みが大切だと思ひます。私は、今後も新報の紙面を通して、三宅島のPRに協力していきたいと思つています。

『支援者の集い』と寄せられたメッセージ(3面より続く)

高橋民夫様(文化放送防災キャスター)

先人たちも自然災害に直面し、幾度も困難と悲しみを乗り越えてきました。自然の美しさとやさしい心の三宅島、島民の皆様の平穩無事を祈ります。

鶴吉様(舞踊家)

今回は残念ながら参加できませんが私の芸が三宅島の皆様のお役にたちますようにこれからも芸道に精進いたします。いつでもお声をかけ下さい

ませ。よい年をおむかえ下さいますように。

京町様(女優・防災コネクター)

三宅島応援団?の皆様には、いつも私が応援いただきとても感謝しております。今年も全国公演で福島被災者、広島では、協力者のNHKの金澤さんとも面会しました。出逢った人に三宅新報を渡し伝える努力をしています。「伝え続けること」心より応援してい

ます。
馬場裕子様(元都議会議員)

ご案内ありがとうございます。大変残念ですが出席できません。弟の介護、見守りの為特に夜は出られませんが。皆様の活動、活躍の様子をうれしく拝見しております。安心の生活を心より祈念しております。

平松尚志様(在京者・元郵便局長など歴任)

発足当初、黒髪をなびかせ真剣な眼でノートに向き合っていた高校生の皆さんが、卒業し主婦と

なり家庭を築き、又は仕事の間を見ては子どもさんを背負い会議や三宅島新報の編集等の援助に駆けつける事を耳にし、なんと凄く素晴らしい事であるうかと万感胸に迫りました。

古舘秀也様(協力者)

最近感じている事。国の報道統制が厳しくなっている。日本の報道の自由度は、2010年世界で11位、2015年世界で61位だそうです。いやな世の中ですね。

増田奈穂子様(ネット世話人・元事務局長)

被災者の方々のニュースに合わせながら、活動の形を変えつつ10年間続けてこられた事は素晴らしい事です。これからも皆様との繋がりを大切にしていきたいと思えます。

松尾駿一様(元三宅高校校長)

いつもご案内ありがとうございます。三宅を訪れる機会なかなかありませんが先日テレビで三宅島や三宅高校の様子がとつても懐かしく思いました。

松村裕子様(東京新聞・中日新聞東京本社編集局社会部記者)

12月は夜勤の為いけません。いつもありがとうございます。

山崎登様(NHK解説委員)

ご無沙汰しています。仕事で東京を留守にしていますので欠席させていただきます。今後もしようとお願ひします。

山田貴久様(DTPA)

これからDTPAのメンバーと新報づくり頑張ります。

吉田雅一様(不動産鑑定士・災害復興まちづくり支援機構事務局員)

同じ目線に立ち三宅島在島村民・島外村民の方々との交流を今後も三宅島再生ネットを介して支援機構の会員に呼びかけたい。(日本公認会計士協会東京会広報委員会副委員長の富田建様からも同じメッセージを頂戴しています。)

他に、吉野文雄様、吉田信行様、柚木裕子様、牧田和雄様、土岐富士子様、小曾スミ子様、キタジマ様、遠山定雄様、菊池千春様(土地家屋調査士)から頂いています。

【寄付者名】

(株) フォレストアツプ様、光安千久子様、戸田正人様、小久保泰枝様、佐藤宗子様、吉田信行様、吉野文雄様、板倉美紀子様
※9月1日〜12月10日まで。誠に有難うございました。

編集後記

あけましておめでとうございます。昨年は三宅島10周年の節目を迎えた三宅の今や、これからの問題について多くお伝えしました。まだまだ課題は多く、支援者の皆様と

もに、前に進んでゆけたらと思っています。新報は本号で60号を迎えました。本年も、皆様と三宅を繋ぐネットワークとしての新報づくりを進めて参りますので、どうぞよろしくお願い致します。(DTPA一同)

口永良部島の報告をする千川先生



「支援者の集い」今年は巣鴨で三宅への思い持ち寄って

昨年12月12日、ふるさとネットの「支援者の集い」が行われた。

今年度の会場は、巣鴨の居酒屋「忍屋」。世話人など20名が参加した集いでは、まず、佐藤就之会長が挨拶。それに続いて大妻女子大学・大学院人間関係学部教授である千川剛史さんが、口永良